

2018 年度 認定 NPO 法人キーパーソン 21 事業報告

【キーパーソン 21 の活動目的】

キーパーソン 21 は、主に小中学生から大学生世代に対して、様々な社会人との交流の場を作り、自分の将来について考えるきっかけを持つことで、一人ひとりが視野を広げ、社会へ旅立つことの自覚と自立心を醸成していけるよう寄与することを団体の目的としています。また、すべての世代が、わくわくしながら主体的に社会参加することを支援し、一人ひとりを最大限に活かす社会を創造することを目指します。

【2018 年度目標】

2020 年 わくわくエンジン[®]が当たり前の社会を実現するために！

2018 年創造 → 2019 年展開 → 2020 年継続

「2018 年の目標は、モデルをつくる！」です。

1. 「わくわくエンジン[®]」を軸とするキーパーソン 21 の考えに共感する、子どもたちを取り巻く社会的関係者（ステークホルダー：親、教員、大学、塾、行政、企業、地域の学習支援などを運営する団体或いは個人）が、各地域での課題解決に向けて、展開しやすいように課題別の**活動モデル**をつくります！
 - ➡ ・親子向けのプログラム、PTA との連携
 - ・事前の教員研修導入
 - ・大学との連携
 - ・まちづくりとして行政との協働
 - ・地域チーム設立の整備
 - ・学習支援・居場所づくり事業への導入企画
2. キーパーソン 21 の考えや活動の社会的意義や価値、活動モデルを効果的に伝えるために、既存のコミュニケーションにとらわれることなく、新しい広報の手段にチャレンジし、**広報モデル**をつくります！
 - ➡ ・講演&ワークによる各地での理解の促進
 - ・ホームページのリニューアルによる各地域の活動のアピール
3. キーパーソン 21 の財産である**会員力を最大化**し、各地域でも活用、展開できるようにするモデルをつくります！
 - ➡ ・コンシェルジュによる案内
 - ・ZOOM によるオンライン交流会の開催
 - ・地域で活動するメンバーのコミュニケーションとする
4. キーパーソン 21 の考えや活動を全国に展開しようとする各地域の会員やパートナーの皆さんが活動しやすくなるように、シンプルで継続性のある**業務管理**のモデルをつくります！
 - ➡ ・セールスフォースの整備
 - ・ドロップボックスの整理整頓

- ・サイボウズによるスケジュール管理・規約などの文書管理
- ・Web 会議システム Zoom の導入

【事業内容】

I 特定非営利活動に係る事業

1. 小中高校生に対するキャリアプログラムの実施事業

活動サマリ

川崎事務局として、「夢！自分！発見プログラム」の他、各学校の課題・ニーズに合わせたプログラムを東京都、神奈川県、愛媛県、高知県、江津市、埼玉県、静岡県にて実施。大学2校、高校2校、中学校8校、小学校4校、その他2箇所において、計2,218名の生徒・児童に実施した。

また川崎事務局として、東京都、滋賀県、沖縄県にてコカ・コーラ協賛の「コカ・コーラ 5by20 女子起業!わくわくプロジェクト」による「わくわくワークショップ」プログラムを実施。大学2校、高校3校において、計1,386名の生徒に実施した。

事業の目的

「わくわくエンジン」を軸とするキーパーソン21の考え方や概念を、子どもたちを取り巻く社会的関係者(ステークホルダー：親、教員、大学、塾、行政、企業、地域の学習支援などを運営する団体或いは個人)に向けて、広く展開する。

実績

a) 学校における実施

- ・プログラム実施（小中高校生世代対象）
 - －「企業の子ども応援プロジェクト」：延べ9校（2小学校、7中学校）
 - －川崎市内高校 1校（2プロジェクト）
 - －川崎市内中学校 1校
 - －大学：2大学
 - －地域：4地域 江東区有明、島根県江津市、高知県四万十町、愛媛県伊予市
- ・日本コカ・コーラ株式会社「5by20 女子起業！わくわくプロジェクト」：5校（2大学・3高等学校）にプログラムを実施。
- ・教員研修：3校（川崎中学校、六本木中学校、渋谷本町小学校）で実施。

b) 学校以外の場における実施

- ・ギャップジャパン株式会社との店舗における実施は本年度実現せず。

c) 個人への実施

- ・個人対応のプログラム solo-solo を1家族を対象に実施

成果/所見

どの対象・プログラムにおいても実施前後において、プログラム効果があることが数字上でも認められた。まあまあ知りたい→とても知りたいに変化するなど、興味関心の程度が増加した。

2019年度以降に向けて実現したいこと

プロジェクトマネジャーの業務を明確にし、各地方でも展開できるようにする。

2. キャリアプログラムの普及啓発事業

1) プログラム開発

活動サマリ

事業の6つの領域のニーズに合わせて普及しやすいプログラムとして、「すきなものビンゴ&お仕事マップ」の「引き出し」の力の育成を新たに加えた講座の編成を行った。

事業の目的

夢！自分！発見プログラムの実施者となるわくわくナビゲーターが力をつけて、よりよく活動できるようにすること

実績

・「すきなものビンゴ&お仕事マップ」のわくわくナビゲーター養成講座を、進行役としてのファシリテーターの役割に加えて、「引き出す力」の育成ができるように、「体験」「引き出し」「メイン」の3つに編成をし、マニュアルを更新した。

・「すきなものビンゴ&お仕事マップ」のワークシートベスト3を改修し、「すきなものビンゴ&お仕事マップ」において「わくわくエンジン[®]」を発見できるようにした。

・講師養成講座を開発に着手した。3月2日～3日の二日間にわたってモデル開催した。

2019年度以降に向けて実現したいこと

・事業の6つの領域からくるニーズに合わせて更なる開発を進める。

・「すきなものビンゴ&お仕事マップ」の講師講座を完成させ、地方において活躍する講師育成に着手する。

・「引き出す力」の強化を目的とし、「個別アクションプログラム」の「引き出し」トレーニングを加えた形に編成する。

2) 広報、コミュニケーション活動

(1) 説明会

活動サマリ

年8回の説明会を開催し、全国のステークホルダーやキーパーソン21を知らない人へ設立の経緯・活動理念・活動状況などを説明する。

事業の目的

個人として会員になるだけでなく、所属する団体が協働する可能性を見つける機会となるよう、質疑応答の時間を設ける。

また、活動の理念を理解しキーパーソン21の伝道師として活躍するエバンジェリスト育成の場としても活用する。

実績

・8回の説明会を開催した。(5月、6月、7月、9月、11月、1月、2月、3月)

・参加者から35名が新規会員として登録された。

・説明会の場を活用したエバンジェリスト(伝道師)養成で、9名が認定された。

(2) WEB, SNS

活動サマリ

キーパーソン21サイトのリニューアルを計画、実施する。

事業の目的

潜在的・顕在的な多種のステークホルダーに対して、キーパーソン 21 の思い・メソッド、メソッドを利用したモデルを～実施中のものも含め伝えることにより、人の動きを創発、広報力を高める。スマホ対応（レスポンス対応）を実施する。

実績

2019年1月から制作開始、6月末にローンチ予定。

成果/所見

以下の機能を実装予定

- ・レスポンス対応（スマホなどの端末対応）
- ・全国に広がる活動を伝えるための仕組み（全国のキーパーソン便り）
- ・中期事業計画に合わせた6つの事業領域を軸としたコンテンツ作成と誘導

2019年度以降に向けて実現したいこと

継続して改善を進めると同時に、第2フェイズとして寄付・クラウドファンディングを推進する仕組みの導入や、対応を効率的に行うための入力フォームの改善等を検討・実施する。

(3) 紙媒体～会員報「WAKUの内弁当」

活動サマリ

事務局が編集方針を決定、会員力最大化担当理事がサポート、元事務局会員がレイアウト～編集に携わり作成することにより、2度の会員報発行ができた。

事業の目的

全国の会員に活動の内容を伝え、キーパーソン 21 を身近な存在と感じてもらうことを目標とする。また適宜、企業等の外部訪問などの際、団体の活動内容を広報するツールとして使用する。

実績

6月に第6号、12月に第7号を発行した。

成果/所見

当初予定していた3本目の3月発行号は、リソースが足りず発行が叶わなかった。

2019年度以降に向けて実現したいこと

HP リニューアルなど、広報戦略全体のなかで会員報の位置づけを再度定義しなおす予定。

(4) 講演、セミナー、研修

活動サマリ

24箇所において講演、セミナー、研修を行った。全国各地の皆さんが地域の子もたちへプログラムを届ける仕組みをつくるための第1歩目としての位置づけで、講演とワークまたはトークセッション、パネルディスカッション、グループディスカッションという講演+aでの依頼増が顕著であった。

事業の目的

全国各地にキーパーソン 21 のビジョン、ミッション、バリューを伝え、全国の子どもの成長、地域の人そだて、未来に関わる方々を対象として実施。キーパーソン 21 の活動の普及を目的とする。

実績

実施した講演、セミナー、研修一覧は次の通り。

- ・2018/5/15 川崎中ロータリークラブ（神奈川県川崎市）
- ・2018/6/2 トビタテ！留学 JAPAN（東京都）
- ・2018/7/11 法政大学現代福祉学部 1 年生（東京都）
- ・2018/7/21 あこがれ先生プロジェクトin滋賀（滋賀県彦根市）
- ・2018/7/28 キーパーソン 21 チーム新潟（新潟県新潟市）
- ・2018/8/2 大田区教育研究会小中合同進路指導研究部会「夏季セミナー」（東京都大田区）
- ・2018/8/31 江津キャリア教育講演会（島根県江津市）
- ・2018/9/15 未来の先生展 2018（東京都）
- ・2018/9/29 有明小学校 PTA（東京都江東区）
- ・2018/10/8 JSBN イノベーションフォーラム（東京都）
- ・2018/10/13 生活クラブ千葉グループ協議会（千葉県）
- ・2018/10/19 イオンモール松本×月刊イクジィ（長野県松本市）
- ・2018/10/20 りうる松本（長野県松本市）
- ・2018/10/20 公益財団法人日本進路指導協会（東京都）
- ・2018/10/23 「黒岩知事との“対話の広場” みんなで育む子どもの未来イキイキ学ぼう in カワサキ」川崎県民センター・政策局政策部情報公開広聴課（神奈川県川崎市）
- ・2018/10/26 四万十町人材育成推進センター（高知県）
- ・2018/11/11 第32回府中市男女共同参画推進フォーラム（東京都府中市）
- ・2018/11/19 沖縄県子どもの居場所学生ボランティアセンター（沖縄県）
- ・2018/12/26 自由学園ライフキャリア教育研究会（東京都）
- ・2019/1/31 愛媛県伊予市佐礼谷小学校&中山小学校（愛媛県伊予市佐礼谷）
- ・2019/2/23 川崎パワーアップセミナー（神奈川県川崎市）
- ・2019/3/7 中野区まざるテラス（東京都中野区）
- ・2019/3/17 相模原市教育委員会（神奈川県相模原市）
- ・2019/3/25 いしかわ学生定着推進協議会（石川県）

その他イベント

- ・2019/6/10 定期総会において会員イベント（神奈川県川崎市）
- ・2019/3/21 キーパーソン 21 主催わくわくわくわく学生創出会議の開催（東京都）

成果/所見

講演依頼が学校教育関係者、保護者、PTA、地域おこし協力隊、人材育成推進センター、大学、行政、等多岐にわたっている。2018年度の講演をきっかけとして、2019年度にキーパーソン21のメソッドを取り入れようという動きのある地域は11か所。更に、キーパーソン21への深い理解者、実行者として、地域にイノベーター（わくわくイノベーター[®]）が誕生している。

(5) わくわく学生創出会議

活動サマリ

キーパーソン21の大学生会員の卒業を祝うイベント及び、キーパーソン21のわくわくエンジン[®]を理解した大学生の姿を広く一般の方々向けに広報する。

事業の目的

キーパーソン 21 の大学生会員の講演を行い、わくわくエンジン[®]を理解した大学生がどんな考えをもっているのかを、広く一般の参加者に理解してもらおう。そんな学生たちの可能性をつぶさずに活躍してもらおうために私たちは何が出来るでしょうか。大学、国、企業、NPO の有識者を集めてパネルディスカッションを行う。

実績

2019年3月21日に開催、約100名の参加

成果/所見

以下の機能を実装予定

- ・大学生会員2名の講演により、わくわくエンジン[®]を理解した学生の人生に対する考えの良さを参加者に伝え、キーパーソンの活動の効果を訴求できた。
- ・大学、国、企業、NPOの有識者ディスカッションにより、現代社会の課題を参加者で共有し、キーパーソンの活動の必要性を訴求できた。

2019年度以降に向けて実現したいこと

- ・大学生会員の卒業イベントは独立で開催する。
- ・キーパーソン21の考えを広く広報するイベントは別途検討して開催する。

(6) 企業や自治体、大学、NPO、諸団体との連携のコミュニケーション

活動サマリ

港区、渋谷区、江東区、川崎市内の学校支援のみならず、全国へ向けて普及活動の理解を得られるよう、コミュニケーションの継続を心掛けた。

事業の目的

「わくわくエンジン」を軸とするキーパーソン21の考え方や概念を、子どもたちを取り巻く社会的関係者(親、教員、大学、塾、行政、企業、地域の学習支援などを運営する団体等)に向けて広く展開する。

実績

- ・協賛企業
カシオ計算機株式会社、ランスタッド株式会社、株式会社エヌアセット、株式会社WOWOW、クアルコムジャパン株式会社、スカパーJSAT株式会社、NTTデータシステム技術株式会社、JACリクルートメント株式会社、NKKシームレス鋼管株式会社
- ・法人会員
株式会社アルバイトタイムス、株式会社カヤバ、富士通株式会社、カシオ計算機株式会社、株式会社言語生活サポートセンター、株式会社SUBARU、いわてキャリアコンサルタント研究会、tyotto、啐啄塾、パルテノンジャパン株式会社、株式会社クリップアカデミー、特定非営利活動法人くさつ未来プロジェクト、国立大学法人金沢大学
- ・全国普及に向けたご寄付や協働プロジェクトの推進パートナーとして
クアルコムジャパン株式会社、日本コカ・コーラ株式会社
- ・大学、行政、NPO、など諸団体
特定非営利活動法人耳をすませば、特定非営利活動法人くさつ未来プロジェクト、国立大学法人金沢大学

2019 年度以降に向けて実現したいこと

地域での協賛企業の開拓並びに自治体との連携の強化。

3) わくわくナビゲーターの養成

活動サマリ

理念や考えを広く普及させていくための人的リソース強化策としてわくナビ養成講座を述べ 15 回開催し 120 名の参加があった。

事業の目的

普及を主目的として一般向けにわくわくナビゲーター養成講座を開催する。また新入会員がキーパーソン 21 の理念の理解を深め、全国に広がる活動の場で活躍出来るように、講座の組み立ての再構築を検討する。

実績

◆キーパーソン 21 主催

わくナビ養成講座の開催回数は 15 回で 120 名の参集があった。

2018 年度から「すきなものビンゴ&お仕事マップ」と「個別アクションプログラム」の引き出しトレーニングを新規に開催し、わくナビのわくわくエンジン®引き出し力向上を図った。

「すきなものビンゴ&お仕事マップ」は 2018 年 11 月から引き出しトレーニングを加えた養成講座となり、「体験」「引き出し」「メイン」として改編した。これにより、会員がわくナビとして活躍したい役割に合わせて講座を選べるようになった。また 8 月には会員親子を対象にビンゴを養成講座の共催として実施した。

すきなものビンゴ&お仕事マップ

- ・旧講座 3/31、5/19~20、8/25~26、11/10~11 (新潟)
- ・新講座「体験」&「引き出し」11/25、1/10、「メイン」2/7
➡ 計 7 回開催 (2017 年度 10 回)
- ・認定級：すきなものビンゴ&お仕事マップ
1 級 2 名、2 級 23 名、3 級 30 名、4 級 5 名 ➡ 計 60 名

個別アクションプログラム

- ・4/7~8、6/16~17、9/8~9、3/30~31 ➡ 4 回 (2017 年度 5 回)
- ・認定級：2 級 14 名、3 級 4 名 ➡ 計 18 名

コミュニケーションゲーム

- ・6/30~7/1、9/29~30 ➡ 2 回 (2017 年度 2 回)
- ・認定級：2 級 9 名、3 級 5 名 ➡ 計 14 名

すきなものビンゴ&お仕事マップの引き出しトレーニング

4/14 ➡ 1 回 8 名受講 (新規開催)

個別アクションプログラムの引き出しトレーニング

7/14 ➡ 1 回 3 名受講 (2017 年度トライアル開催)

◆パートナー主催のわくナビ養成出張講座

NPO 法人くさつ未来プロジェクトによる わくナビ養成講座 (すきなものビンゴ&お仕事マップ) を 12 月 15 日に滋賀県草津市において開催した。受講者数は「体験」17 名、「引出し」19 名。

- ◆認定委員会が2018年4月28日と2019年2月17日、2回開催した。
「すきなものビンゴ&お仕事マップ」3名が1級認定、1名が仮認定された。
「コミュニケーションゲーム」1名が1級仮認定された。

4) 大学への支援事業

活動サマリ

拓殖大学、法政大学では、講義の一環として「すきなものビンゴ」プログラムを実施、金沢大学とはパートナーシップ提携を結んでの活動となった。

事業の目的

偏差値偏重の進路選択等の影響により、受け身的になっている大学生がプログラムを通じてわくわくエンジン[®]をもとに自ら行動できるようになり、本当の自信をつけ社会に旅立つことができるような支援をする。

実績

拓殖大学：商学部&政経学部の1年生全員、教職員も合わせた計1,056名に対し、講義枠19コマにおいて、「すきなものビンゴ&お仕事マップ」を80分で終わらせるようにモディファイし実施した。

法政大学：現代福祉学部22名×2クラス、100分間2日程でプログラムを実施した。1日目はわくわくエンジン[®]の概念理解と担任湯浅誠先生とのトークセッション、2日目はすきなものビンゴ体験版。

清泉女子大学と専修大学において、コカ・コーラ5by20「女子起業！わくわくプロジェクト」の事業でプログラムを実施した。

金沢大学：COC+事業をサポート。いしかわ学生定着推進協議会主催のイベントにおいて、トークセッションにファシリテーターとして登壇した。

また、就職支援室とともに、金沢大学のキャリア教育のアップデートのためのプログラムの開発メンバーとして参画。教職員を対象に「コミュニケーションゲーム」と「すきなものビンゴ&お仕事マップ」を体験いただき、どのように活用していけるかの議論を行った。

成果/所見

拓殖大学、法政大学で「すきなものビンゴ&お仕事マップ」大学生向けにカスタマイズし実施。学生同士が問い合うということを加味したり、ワークシートを追加したり試行錯誤をしながら進めた。アンケートの声をみると一定の効果があったように思う。変革に積極的な大学において、効果測定をしながら、さらに改良をすすめたい。

実施後アンケート（抜粋）

◎自分の何気なくやっていたことが、そうだったのかというような気持ちになるぐらいの驚きの発見ができた気がする。

◎今まで自分のすきなこと、大切なことなどを考えるということをしたことがなかった。自分の知らなかった自分について考えることができた。

2019年度以降に向けて実現したいこと

金沢大学において、わくわくエンジン[®]をもとにした、インターンシップ、エクスターンシップとの接続を考えたりする等、大学生活4年間を見通した大学のキャリア教育モデル作りをすすめる。

5) 地域活動支援事業

(1) パートナー連携

活動サマリ

2017年度4件のパートナーシップ提携の内、3件が2018年度に契約を継続した。今後も継続につながるようフォローアップの充実を図る。

事業の目的

地域課題の解決のために既に活動している団体に対して、プログラムの運用やノウハウ提供をサポートすることにより、それぞれの地域に効果的に我々の理念や考えを届ける。各地パートナーと連携を図ることによって、全国普及を進める。

実績

- ・認定NPO法人くさつ未来プロジェクト(2年目):
前年度に続き、わくわくナビゲーター養成講座を実施。
「すきなものビンゴ&お仕事マップ」を6回、合計71名の子どもたちに実施。
- ・クリップアカデミー(塾)(2年目):
塾生に「すきなものものビンゴ&お仕事マップ」2回実施。
- ・金沢大学(2年目):
「すきなものビンゴ&お仕事マップ」を3回計37名の大学生へ実施。

成果/所見

パートナーシップ提携2年目の団体が3団体となり、そのいずれもが「すきなものビンゴ&おしごとマップ」を実施した。プログラム実施後の子どもたちの反応が素晴らしく、団体の中でキーパーソン21のプログラムの有効性を実感していただけている。さらによりよいものとなるように、各団体の課題に対する要望に対応した充実したフォローアップが、更なる継続の鍵になると考える。

2019年度以降に向けて実現したいこと

新規のパートナーシップ3件を目標とし、広報活動を通じて全国に発信できるモデル作りを進める。

また、既存パートナーについては、フォローアップの充実により100%継続を目指す。パートナーとのプログラム共同開発についても、可能性を探る。

(2) 地域チームとの連携

活動サマリ

地域チームとしてスタートできる仕組みを構築。地域活動の希望のあった会員に対してオンライン(ZOOM)説明会を9月に2回実施。

2019年3月31日時点で、新潟・湘南・北関東の3地域で地域チームを結成し活動開始。北海道は準備会として活動。

事業の目的

地域を軸にした会員チーム活動によって、地域の課題を捉え、地域の会員同士が協力して課題解決できるようにする。会員が主体的になりキーパーソン21の活動を地域に届けることができるよう支援する。

計画

地域チームの仕組みを整え、活動開始が可能となるようにする。(支部という名称から地域チームへ呼び名変更)

実績

9月開催の2回の地域活動開始のためのオンライン説明会に合計17名の参加。その後、新潟・北関東・湘南3地域についてはリーダー、副リーダー、会計3役決定、手続きを完了、北海道はチーム結成直前の状態。活動参加者は4地域併せて計52名。2019年4月より、正式に地域チームとして活動開始。

(2018年度実績)

- ・北海道：プログラム実施1回（親子）10名、トークイベント1回開催
- ・新潟：プログラム実施学校3校、地域イベント2回、計501名対象
講演&ワーク1回、養成講座1回開催、広報用映像制作
- ・北関東：講演&ワーク1回、過去の説明会をきっかけに2019年度2団体（自由学園、児童養護施設）との取り組み決定
- ・湘南：寒川中学校プログラム実施1回72名

成果/所見

地域の課題に地域のキーパーソン21の仲間と共に取り組んでみたい、地元でもできることをしたい、何か貢献をしたいという会員からの声を形にすべく、1年かけて仕組化した。地域という軸での会員活動が、キーパーソン21にとってプラスαの活動となり、全国の子どもたちや彼らを取り巻く地域社会にインパクトを与えることができると考えている。

さらに良いものになるよう、そして継続可能な活動になるよう、一層各チームとの連携をはかる。

2019年度以降に向けて実現したいこと

- ・全国展開できそうな事務局プロジェクトについて、地域チームとの連携を積極的にすすめる。(5by20等)
- ・地域チーム同士の連携や情報交換を図れるよう、6か月に1回Webミーティングの場をつくる。
- ・地域チームの活動内容を広く告知できる仕組みを整える。

3. 社会参加支援事業

1) 川崎市「学習支援・居場所づくり」事業における地域支援（中原“わくわく”学習会）

活動サマリ

中丸子教室と新城教室の2箇所で開催した。中原区（高津区の一部も受入）の中学生（33名）に対し、大学生から社会人まで、幅広い学習サポーター（25名）で個別学習支援を行い、3年生は全員（10名）が高校に合格。学習支援と共に、キャリア教育プログラムの「面接対策プログラム」として「すきなものビンゴ」を実施し、一人ひとりの個性を大切に将来へ希望を持って進もうとする意欲を醸成した。

事業の目的

川崎市の学習支援・居場所づくり事業として受注し、中原区及び高津区の一部（新城教室に近い生徒を受入）の生活保護受給世帯の中学生を対象に学習支援と安心できる居場所を提供。

- ①安心感と自己肯定感の醸成
- ②目的意識の向上と学習意欲の向上

③学力向上による希望進路の実現

計画

志望校合格、成績向上、将来に希望を持てる子どもに育てること。

開催日数 88 日/1 か所× 2 か所で 176 日。

実績

・開室実績→ 中丸子教室（火・木）は 87 日、新城教室（水・金）は 89 日開室。

実施時間 1 日 2 時間。

・高校へ全員合格→ 公立の全日制：5 人、私立の全日制：3 名、公立の定時制：2 名

・学習支援→ 成績向上に貢献。「勉強できる場所づくり」の意義を再認。

・居場所づくり→「子ども同士、子どもとサポーターが仲良く過ごせる場所」として機能。

成果/所見

3 年生全員が第一志望校に合格し、希望進路の実現目標を達成。

長期欠席者への対応で苦勞することもあったが、子どもに寄り添う支援を徹底することで、安心できる居場所としての役割を果たすことができた。次年度も引き続き「川崎市学習支援・居場所づくり事業」を継続することになったので、学習意欲を高める指導の拡充を図ると共に、将来に対する希望を持った子どもに育てることを目標に取り組んでいきたい。

2019 年度以降に向けて実現したいこと

2019 年度からひとり親家庭に事業対象範囲が拡大すると共に、対象年齢の幅を広げて小学生 5・6 年生も受け入れることになった。小学生への対応については、塾に行く余裕のない家庭の子どもたちに対して、生活の場となるような学習環境を提供する。2 箇所での運営について、教え方や教材活用の共通化などの見直しを行い、子どもたちの学習意欲・学力の向上をより一層図っていく。

2) 「学習支援・居場所づくり」自主事業による地域支援（小杉“わくわく”学習室）

(1) こすわく学習

活動サマリ

本年度より、中学生だけでなく学ぶ意欲のある青年にも門戸を開いた。学習を通して個々の未来を共に考え、切磋琢磨できる場となり得た。

事業の目的

諸々の事情により塾に通えない子どもたちに学習の場を提供、居場所としても機能させる。

計画

毎週水曜日（お盆の週、年末年始、祝日を除く）の開室を計画する。

実績

受験勉強に対応するため、年間で 48 回開室した。12 月からは中学 3 年生のみを対象に金曜日を追加して開室した。その甲斐あって中 3 生は全員高校合格を果たすことができた。

成果/所見

今年度、中3生は1名だったが、反抗期の中で、学習に向き合わせる事に困難を強いられた。保護者との連絡をいつも以上に密にし、合格に導くことができた。

中1、中2生は全員、それぞれの成績をあげている。

今年度より入室した青年2名は、勤め先の事業計画変更のため失業を余儀なくされたが、1名は再就職を果たした。もう1名は希望の実現へ向け、老人介護の初任者研修の資格を取得することができ、その方向で正規雇用での就職を考えている。どの子ども着実に良い方へ向かっていて、こすわくが機能していると自負できる。

2019年度以降に向けて実現したいこと

どの子どもも、社会での実経験、実体験が非常に少ないと痛感している。

美術館や博物館、観劇など、ごく普通に家族と一度くらいは～と言うような経験が、学校行事意外では一度もない事を知った。そのような機会をこすわくで行えたらと考える。

(2) こすわく英会話

活動サマリ

国内在住のネイティブ講師により、国際的な知見と世界の諸テーマを取り入れた興味溢れる内容の英会話レッスンを、中学1年生から高校3年生までの多様な生徒6名を対象に年間30回実施した。運営担当者やアシスタントの大学生も英会話に対する強い興味と知見を活かしつつ、生徒各々のレベルに応じた英会話能力のレベルアップに努めた。

目的

川崎市内在住の経済的困難を抱える家庭の子どもたちに、学校教育を補完する学びと放課後の居場所の提供を目指しつつ、英会話を通じて視野の拡大と将来の生活の夢や希望を持たせることを目的としている。

計画

5月～翌年3月まで、毎週月曜日の夜の時間帯に年間30回の生きた英会話レッスンを開催する。

実績

全30回を通じて、英会話能力の伸長、外国人に接するときの消極性の除去に尽力した。英語で発想し話すための文法や構文の成り立ち、表現スタイルの違いの理解を促すことに努めた。

成果/所見

英語に初めて接する中学1年生から高校3年生までの多様な生徒構成は、時に指導進行に苦慮する局面もあったが、講師、アシスタントの適切な連携とレビューで乗り越えた。テーマの見直しや個人面談を通じ、レッスン内容の維持向上に努めると共に、学校の授業で学んだ英語に少しの応用と自分に自信を持つことで外国人との英会話が楽しくできることを継続し提供していきたい。

2019年度に向けて実現したいこと

子どもたちに対して英会話指導のモデルとなるよう、より良いテキスト、IT教材等も取り入れてカリキュラムの一層の充実と最新の情報収集に努め、多様な楽しい内容に取り組んでいきたい。

3) 川崎市委託事業「寺子屋」

活動サマリー

川崎市教育委員会より、3年目となる寺子屋事業の委託を受け、中原区内にある川崎市立今井小学校で事業展開した。

目的

子どもたちに放課後の居場所を提供すると同時に、地域で子どもたちを育てるため、地域のおとなを中心とするスタッフにより子どもたちへ学習支援を行う。また、週末を使って普段学校では教わらないような学びを提供する。

計画

年間 26 回の水曜日の学習支援の場と、年間 6 回の土曜日に親子を対象とする体験学習の場を今井小の子どもたちとその保護者に提供する。

実績

学習支援：2018 年 5 月最終週を皮切りに翌年 2 月最終週まで、26 回の水曜日を学習支援活動に充てた。今年度は 35 名の児童の応募があったが、サポーター（寺子屋先生）として地域の高齢者だけでなく、今井小児童の保護者 3 名も参画してくださり、地域で子どもたちを見守り育てるうえで大変有意義な活動となった。宿題やプリント学習にとどまらず、工作やクイズ、日本在住の外国人による海外の生活習慣の紹介など、各回 1 時間の中味を充実したものとなるようコンテンツに心掛けた。

体験学習：保護者と共に参加する寺子屋として 6 月 23 日の初回から 2 月 16 日まで 6 回の参加型イベントを今井小体育館で開催した。従来通り打ち合わせからトライアル実施まで、十分な準備を通じて体験学習のプログラムとすることで、児童並びに保護者の共感を得るよう心掛けた。

最終回は 3 度目となる演劇「グレイッシュとモモ」公演とし、本年度は希望する今井小の児童がダンスに参加するシーンを加え一体感を高めるよう試みた。

成果/所見

2018 年度は今井小学校の創立 60 周年であったことから、特別事業により寺子屋開催ができなかった期間があり、定期的に寺子屋に参加する習慣が途切れたのが残念であった。

- 平日の学習支援に保護者 3 名が寺子屋先生として参加して下さり、地域の高齢者と一緒に子どもたちを育ててくださったのは大きな成果である。
- 3 回目となった「グレイッシュとモモ」公演で、今井小の子どもたちにダンスシーンでの参加機会をつくれたこと、近隣の小中学校にも観劇の声掛けをしたことなど、着実に地域の教育イベントとして成長してきている。
- 猛暑の夏、インフルエンザとの戦いとなる冬と、体育館での体験学習実施に厳しい季節をどう乗り切っていくか、対策が必要である。

2019 年度に向けて実現したいこと

どのようにキーパーソン 21 らしさを出していくのか、改めてコンテンツを考えていくことが重要である。また、これまで以上に川崎市内の会員の積極的参画を得られるようにしたい。

4. その他目的達成のために必要な事業

- 地域グループの形成による情報発信と共有により、アクティブ会員の掘り起こしと情報の流通を促進した。
会員の持つ知見や経験、発送を最大限に活かし主体的に活動ができるよう、サポートを行った。
 - ・ファンドチーム：寄付などにより、資金を集める。
 - ・イベントチーム：総会イベント、わくわく学生創出会議、説明会の開催を運営サポートした。
 - ・大学生応援チーム：わくわく学生創出会議をサポートした。
 - ・劇団：わくわくエンジン®の考えや活動をベースにした演劇を総会において行った
 - ・IT情報チーム：組織の管理体制整備のためにセールスフォースを活用のためのシステムを構築し、運用サポートを行った。
 - ・教員チーム：教員を中心として「未来の先生展」に出展した。
 - ・チャリティカレッジチーム：読書会を3回開催した。

II その他の事業

特になし。



【参考】

